



平成24年度見沼たんぼくらぶ総会を開催 役員改選・新年度の活動計画など決まる

平成24年4月21日(土)午前、見沼グリーンセンターにおいて会員・来賓合わせて38名出席のもと「平成24年度総会」を開催しました。議事では「23年度事業報告・収支決算報告」が承認され、引き続き「役員改選」で「24～25年度役員」が選出された後、「24年度事業計画・予算案」が可決され、平成24年度がスタートしました。

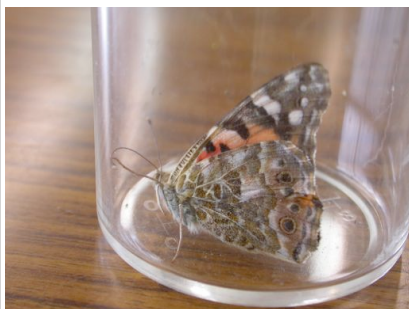
平成24年度～平成25年度 見沼たんぼくらぶ役員

会 長	新井 一裕 (さいたま市中央区)	再任	副会長	厚澤 正栄 (さいたま市緑区)	再任
副会長	小野 達二 (さいたま市見沼区)	再任	副会長	三上 雅央 (さいたま市浦和区)	再任
理 事	北原 典夫 (さいたま市中央区)	再任	理 事	佐々木明男 (さいたま市見沼区)	再任
理 事	島田由美子 (さいたま市見沼区)	再任	理 事	関根 通雄 (さいたま市浦和区)	再任
理 事	高橋いずみ (さいたま市浦和区)	再任	理 事	長澤 義則 (さいたま市南区)	再任
理 事	中村 敏和 (さいたま市大宮区)	新任	理 事	三次 宣夫 (さいたま市岩槻区)	再任
理 事	召田 紀雄 (さいたま市西区)	再任	理 事	八木 一郎 (さいたま市浦和区)	再任
理 事	若月きみ子 (さいたま市見沼区)	新任	理 事	若野 忠男 (春日部市)	再任
監 事	久保 徳次 (さいたま商工会議所)	再任	監 事	森 茂典 (J Aさいたま)	再任
顧 問	上木 雄二 (県土地水政策課長)	新任			

第88回 見沼塾 「牧林 功先生の講義等」

春の白いチョウを中心に、ジャノメチョウ、外来種のお話、また会場周辺で実際にチョウを見ての観察等が5月13日に実施された。チョウの食草による発生場所の違い、発生回数の違い、飛び方の違い、羽の形の違い、英名と食草のつながり等、興味深いお話を拝聴出来ました。

外では観察用のケースを用いて実際にチョウを観察しました。産卵中のモンシロチョウを見つけ、卵をルーペで調べました、ヒメアカタテハも



捕まえ観察しました。タテハチョウの前脚が短くなっている事等がルーペで実際に分かりました。

第89回 見沼塾「映像で見る自然と史跡」

日時：平成24年6月2日(土曜日)

講師：佐々木 明男 (芝浦工業大学名誉教授)

1. 本講座はスライドにて100枚を超える映像を紹介。見沼の文化財65枚、風景46枚。
2. 史跡・文化財の数々に感動があり、特に、我家近くの大日堂板石塔婆が旧市内では最も古く、鎌倉時代の1267年に造立(高さ2.07m)。又、国の史跡では我が故郷長瀬の板石塔婆が5.35m(最大)である等の講義を頂き、50名近い受講者の方々とともに、楽しき学びの1日となりました。



(中村 敏和記)

見沼たんぼくらが関係のイベント

見沼ふれあい農園づくり 1号地 (5/1)

1号地(緑区大字見沼610・613)の里芋・八つ頭及び生姜の植付けを行う。農園づくりで5月開始は久々振りの試みである。事業参加は当会員有志が対象である。この日の参加者は14名であった。作業手順説明のあと適切な連携作業によって植付けは午前中に完了した。事前の除草・整地・施肥・畝づくり作業は厚澤正栄副会長に実施して頂いた。今後、毎月除草等の作業が行われるが秋の収穫が期待される。

第48回自然観察ハイキング

「見沼の自然と史跡を訪ねて」(3/24)

東浦和駅集合、見沼通船堀公園(緑区)で集会して4班編成(参加者24名)で小雨の中をスタートする。コースは、見沼南部地区で見沼通船堀(西縁)―鈴木家住宅―八丁橋・水神社―見沼通船堀(東縁)―木曾呂の富士塚―川口自然公園―東沼神社―見沼自然の家―浦和 ぐらしの博物館 民家園である。寒かった天候の影響か、水神社のカワヅザクラは花が咲いていたが、ソメイヨシノ・アンギョウザクラはまだ蕾のみである。樹木ではツバキ・ギンヨウアカシア・トサミズキ・ボケなどが咲いており、草花ではショカツサイ・タチツボスミレ・ホトケノザなど春季の常連達と会うことができた。鳥達は雨のためアオサギ・カルガモ・ツグミなど僅かであった。

第49回自然観察ハイキング

「見沼たんぼから大宮盆栽美術館へ」(4/21)



見沼たんぼの北西部において曇時々薄日の射す天候のもとで参加者48名・5班編成で実施された。コースは市民の森(北区)―見沼公園―見晴公園―大宮盆栽美術館―漫画会館である。

ソメイヨシノは既に葉桜だが、見沼公園には満

開のウコンザクラ・カンザンがあり、じっくりと観察する。

神明社の鳥居の左側には庚申塔がそこには三様の姿勢をした三猿の像があった。見晴公園の風車塔からの見沼2丁目の菜の花畑は満開であり、斜面林の木々の新緑も美しい。公園やコースの傍らにある樹木や野草の花も多く見られた。大宮盆栽美術館は平成23年3月盆栽・盆器・関連美術工芸品を収蔵して開館した。

丁度、特別展「ウキヨエ盆栽園」が開催中で明治時代の盆栽のある美人画や盆栽づくしなどの浮世絵が多く展示されていた。なお、盆栽展示場は撮影禁止であるが、掲載の写真は撮影可の場所にあった盆栽である。

第50回自然観察ハイキング

「見沼たんぼ北東部の里山を歩く」(5/26)

天候は晴れ。参加者49名・5班編成。コースは見沼たんぼ北東部の緑区から見沼区に跨る地区にある見沼自然公園―見沼代用水東縁―上野田水川神社―深谷家長屋門―さぎやま記念公園―加田屋新田―旧坂東家住宅 見沼くらしっく館である。

まず、見沼自然公園の修景池にはスイレンの花が咲き、コイが泳いでいる。



岸には帰化種のキシウブの花があり、また、ラクウショウの絶妙の形の気根も観察する。このコースで花の咲く樹木はスイカズラ・ノイバラ・センダン・マユミなど20種程度あり、また野草ではノアザミが綺麗に咲き、更にコウゾリナ・クサノオウ・ミノツヅリ・フタリシズカなど多くの種が咲いており事前調査では87種を確認している。

加田屋新田では田植えが行われている所もあるが、この地区にあるNPO法人見沼ファーム21の水田では明日(27日)が田植えであるという。

(若野 忠男記)

見沼たんぼ地域の会員関係イベント

森開き 保全活動のつどい

みどりのボランティアで、市長さんも区長さんも総勢48名 爽やかな汗を流しました。

さいたま市は新たに大和田1丁目の屋敷林を買収し、特別緑地保全地区に指定し、これから市民のボランティアで保全活動を始めます。

そのスタートのつどいが、5月27日(日)9時～11時30分に行われました。場所は、東武野田線南側の老人ホーム「やわら樹の里」隣です。

主催：さいたましみどり愛護会

(事務局：さいたましみどり推進課)

共催：見沼区市民活動ネットワーク

(事務局：見沼区コミュニティ課)

清水勇人さいたま市長・倉林克昌見沼区長はじめ48名が保全活動に取組みました。

クズの根が網の目のように張り付いています。農機具を一杯振りおろすのですが、表



土から横にどこまでも這うもの、真下に長く伸びるもの、ゴボウ状のものから、もっと太いものなどあって、大変な作業でした。

来春、コナラ・クヌギの幼樹を植え、雑木林の



斜面林に育てますが、それまでの草刈りが大変です。

ご協力いただける方、さいたま市

みどり愛護会大和田・大谷支部に入会いただければ幸いです。

面積約4,000㎡の緑地はほとんどが斜面のため、見沼たんぼが一望できる好立地です。花火の時には最高のスポットとなるでしょう。

(佐藤 明夫記)

第23回見沼の自然ふれあいウォーク

5月3日、NPO法人自然観察さいたまフレンド主催の「第23回見沼の自然ふれあいウォーク」が開催された。生憎肌寒い小雨の降る日となったが、8名の方々が下記のコースを歩き抜いた。

さいたま新都心駅⇒新都心東広場⇒見沼代用水・境橋⇒芝川・片柳橋⇒みぬま見聞館⇒芝川・中川橋⇒芝川・高鼻橋⇒合併記念見沼公園

参加した皆さんは熱心な方ばかりで、この程度の雨にはビクともしない。新都心東広場の巨大樺の下を通り、高沼用水路の遊歩道を進むと見沼代用水西縁に架

かる境橋に出る。ここからは田圃の中の地道を進むが、道の脇にホトケノザ、オオイヌ



ノフグリ、ミドリハコベ・・・等々色々な花に触れる。中でもハルジオンはあちこちに見られ、薄いピンクの花を付けて私たちを歓迎してくれる。

見沼見聞館で一休みした後、芝川沿いに進む。普段は水量の少ない芝川なのに水嵩を益し、あと1mも水位を増せば大洪水になるほどで、リーダーの方も驚いていた。堤防の法面を観て歩くとセイヨウカラシナ、キツネアザミ、イヌムギ・・・等々が観られ、カラスノエンドウが巻ひげをからませ赤紅色の花を咲かせているのが目立つ。「俺の領地だ・・・」と言わんばかりに他の植物の上に覆いかぶさり威張っている。合併公園に近付くとこの雨で道路が冠水、長靴はすっかり潜ってしまった、これには参った。

終着の合併記念公園に着くと「ふれあいまつり」が開催され、直売場等もあって訪れる人で大変な賑わいだ。雨降りのウォークではあったが、田圃の見事な自然に触れる事が出来、どの皆さんの顔にも大満足の笑みが見られました。

(召田 紀雄記)

見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

絵と解説 八木 一郎



「園児たちの遠足」（見沼・加田屋新田にて）

保育園の先生に四角い箱の車で連れてこられた幼子たち。田の畔道の草花を摘んだり、泥遊びを楽しむ様子をみていると、遠

「さいたま市立浦和博物館・鳳翔閣」

さいたま市立病院の入り口右側にあり、見沼代用水に関する興味深い資料が多く展示されている。

建物は明治11年に埼玉県師範学校校舎「鳳翔閣」の胴部外観を復元したもの。明治天皇が北陸東海巡幸の際、三条実美により鳳凰が羽を広げて飛び立つ様から名付けられたといわれ、バルコニーの柱に彫られたアカンサスの葉が特徴。



見沼たんぼくらぶ会員作品展

見沼たんぼくらぶでは、会員のみなさまの作品をみぬま通信で順番に紹介する誌上展覧会を開催します。

絵画や写真、クラフト、詩や俳句など、作品を会員の皆様から募集いたしますので、誌上に掲載する作品の写真または詩文と作品の紹介文を同封の上、本誌8ページに掲載の発行所まで郵送してください（写真は返却いたしません）。

見沼たんぼに関わる作品を優先して紹介させていただきますが、それ以外の作品でも紹介いたします。会員の皆様の多くのご応募をお待ちしております。なお、紙面の都合上、すべての作品を紹介できない場合



見沼たんぼ絵図 ムラサキケマン
作者：植木秀視（うえきひでみ）

見沼たんぼ探訪記

見沼たんぼ体験水田米作り

田植え日和に恵まれた5月27日、加田屋新田2か所のたんぼで家族連れなど330人余の市民達が田植えをしました。主催は県、公有地化利活用推進事業の一つとして当会が県から受託、実施し、今年14年目となる「見沼たんぼ体験水田米作り」活動の始まりです。

4月の「彩の国だより」で募集した参加者100組の内、リピーターは半数以上、これまでに実施したアンケートによれば子どもに米作りを体験させたい、見沼たんぼにもっと触れたい、そして、参加してから子どもがご飯を残さなくなった、見沼たんぼの大切さを実感した、等といった声が寄せられています。

コシヒカリのポット苗をスタッフの指導で印のついたロープに沿って手で植える、終わってみればたんぼ一面にきれいな緑の線が並びました。子ども達と一緒にさいたま市清水市長も田植えに参加。まだか細い苗も今後見沼の土と代用水の水とそして夏の太陽の下で丈夫に育ち、おいしい米



を实らせてくれることでしょう。

このたんぼではホウネン

エビやカブトエビなど様々なたんぼの生き物が次々に見られるようになります。絶滅危惧種のトウキョウダルマガエルやマルタニシ、ミズワラビやサンショウモなども成長した稲の株の間に姿を現します。そんな生き物調べを子ども達とするのもこれからの楽しみ。

見沼の原風景が今も残るといわれるここ加田屋新田一帯に広がる水田風景、これからも「残したいふるさとの風景」です。

(NPO法人見沼ファーム21 島田由美子記)

見沼代用水東縁の春の賑わい

見沼たんぼは、さいたま市の東北部に位置する広大な緑地であり、その広さといったら東京都・千代田区の面積に近く約1260haもあるそうです。この中を流れる見沼代用水東縁の桜が、季節になると毎年見事だという事を耳にしていたので4月7日訪れる。

東縁の流れは延々と続くが私の訪れた所は、見沼自然公園を中にして約600mの距離だった。水路に沿って「グリーンロード」が出来ており、この道を覆い隠すようにさくらの花が「花のトンネル」を作っている。咲き頃としては7分咲きといったところだが、実に咲きっぷりが見事だ。今日は土曜日でもあり、花に誘われて来た人たちがあちこちに見え、桜花を觀賞しながらゆっくりと歩いて行く。



この辺りは1624年、徳川家光公が水田確保のために「溜井（平均水深1m、周囲約40数km）」を造った所である。さらに、徳川吉宗公は財政難の解消のために新田開発を奨励、1728年、この溜井の干拓と見沼代用水の開削の工事を完成。代用水は新田の東縁と西縁に2本の流れとし、約60km北上した利根川からの水を引き入れるに至ったのでした。

グリーンロードの1段下がった所に50cm程の幅の水路があり、家族連れの一団が「ホレホレ、ソコニモアルゾ・・・」と大きな声を出している。近寄ると「芹摘み」をしており、辺りにはハコベラやナズナ・・・等、春の七草や名の知らぬ沢山の草花で賑わっている。およそ300年近く流れ続けている東縁の堤は、今年も春の季節が来た事を私たちに知らせてくれるのでした。

(召田 紀雄記)

宮田正治先生追悼

約4年ほど前の2008年9月14日、読売文化センター浦和の講師の影絵作家、丘光世先生のお誘いで浦和駅前のパルコ9階に足を踏み入れた時、<見沼文化の会創立10周年記念展>が開催されていました。入口に大きな竜のハリボテが・・・、受付の記帳を済ませて会場の壁やテーブルの展示物を眺めているうち、A5判の会誌「竜のひげ」が創刊号から20号まで並んでいました。初めて手に取る雑誌でしたが何故か懐かしく感じたのを今でも思い出します。隣に「竜神の沼」「竜神伝説」などの本が展示されていました。

子供の頃北浦和から西高の橋のところまで自転車で遊びに行っていた、一面の田んぼと用水の風景が甦ってきました。ただの田んぼが今ではこれだけ大きな意味をもった空間であり、「見沼」の歴史・地理・文化・生活を貯えた地域なんだと気付かせられました。そのうち記念イベントが会場の一角で始まる気配、いすに座っていると、かなりの年配の方が絵話「見沼の竜」を語り始めたのでした。模造紙全判に描かれた竜と役人井沢弥惣兵衛と農民たちの物語です。

話の内容よりも、よくこれだけの長いお話を台本も見ずにそれも直立不動でソラで話せるもんだなあ・・・と、そうです、その方が宮田正治先生だったので。にこにこ顔の先生、いまでも憶えています。その日の帰りに先生の本を買い求めようと受付に行きましたら、先程のご老人がこられて、実は今日は展示用しか置いてありませんので、よろしければ後日お渡しできますが、と丁寧に言われました。宮田先生と初めて交わした言葉でした。

それから1ヶ月も過ぎた10月29日の夜、宮田先生から次のようなメッセージが・・・。

【原文のまま】(10月29日夜)

高橋正幸様、夜分失礼いたします。)

過日は大変お世話になりました。今頃申し訳ありませんが、下記のお知らせ、ご覧下さい。

・・・「見沼文化の会創立10周年」

記念祝賀会へのお誘い」・・・

会員の皆さんへの発送間際、体調を崩し、係の方たちがやって下さり、本日人数がまとまりました。その中に高橋さんのお名前が無く、漏れたのだと思います、その通り名簿に記名して無く漏れたのです。ご出席頂きたく急いでこれを認めました。失礼をお許しの上、ご連絡下さいませ。宮田 拝

あの日見沼文化の会に入会したばかりで、話もろくにしていない私に、突然宮田先生からこんな手紙が・・・。見沼の本を何冊も書かれている作家の先生から、私如きにこんなメッセージがくるなんて・・・。すごく感激してしまいました。今でも大切に胸の奥にしまっています。

それから宮田先生の講演に就いて行くと絵話「見沼の竜」の絵めくりをしながら、先生が語る“笑顔”がとても好きでした。講演の帰り道、車中でいつも先生と講演の反省会をしました。

「高橋君、今日の見沼の竜はどうだったかねえ。」
「先生、大日堂のところ、・・・人間だけがよければ見沼の生き物たちはどうなってもいいのですか・・・。のところ抜けましたね。」
「ああ、そうだったかなあ。」
「先生、祭神の系譜、タイムオーバーでしたね。」
「そうだね。日本の神様の話は面白いから、ついねえ。」

いつも先生は、ほんとに楽しそうに“竜”を語っていました。今頃は天界で宮田先生と井沢弥惣兵衛と竜との三者で<見沼談義>でもしてるのかなあ・・・。

(見沼文化の会 高橋 正幸記)



写真：2009年10月北茨城五浦海岸へ、
あんこう鍋に舌鼓



写真：2010年10月さいたま市
辻南小での講演

見沼たんぼの農家さん

白子果樹園

さいたま市立病院から北宿大橋を渡って大宮厚生病院へと坂を上っていくと、涼しげな葡萄棚の脇に白い看板があります。白子英俊さんはこの「白子果樹園」の4代目。

幸水、豊水、新高など主に梨を栽培しています。お訪ねした時は、すでに摘果が終わって4センチほどのかわいい梨の実が、葉の間からまぶしい光を浴びていました。

チェロの音色を思わせるような落ち着いた印象の英俊さんは、ごく普通に家を継ぐものと思って



いたから、小学校の時の作文でも「将来は梨屋さん」。進学も農業系に進みました。卒業後に鴻巣の梨農家で一年間研修を受け、栽培で一番大事な剪定の基礎を学び、後はひたすら実践あるのみ。基本的に作業はすべてご両親と奥様の4人でこなしていますが、受粉の時期だけは知り合

いの人に手伝いに来てもらうそうです。短期間で終えなければならない上に、温度などにも影響される受粉が一番大変な作業だそうです。豆粒くらいに育ったところで、余分な実を落とす摘果の作業があり、さらに7月下旬から8月に必要に応じて最終の摘果を行います。

市場に卸すには少し早めに収穫する必要がありますが、白子さんは直売と宅配で販売しているので、味と品質を重視してちょうど良い時期に収穫しています。現在一般的に行われているジベレリン処理も行っていない（これは種無しブドウをつくる際にも使われていますが、梨をお盆の時期に欲しいという市場の要望に応じて実の肥大を促進し、早めの収穫を可能とする方法）。です

から白子果樹園の梨はちょっと遅めの収穫となります。

ここでは、このあたりでは珍しい梨のもぎ取りも行っています。採り方によっては木を傷めてしまうこともあるそうですが、お客さんが喜んでくれるのでこれからも続けていきたい、とのこと。実は私も昨年採らせていただきました。「大きくなる品種は大きいほうがおいしい」という白子さんの言葉通り、一個で1kgを越すような大きな大きなもぎたての新高は、それまでの私の新高の常識を覆す、瑞々しいおいしさでした。

今年度からさいたま市農業青年協議会の会長を務めている英俊さん。見沼たんぼについては、生まれた時からそこにあつたので特に意識したことはなかったそうですが、あちこちで宅地化が進み農地が住宅地に囲まれて継続しにくくなっていく中で、市街化される心配がないから安心して農業を続けることが出来ると感じているそうです。

今後については、今の広さが手をかけられる限界だから、栽培面積を増やすことは考えていない。古くなった木を新しい木と植え替える改植を行い、梨狩りや、最近始めたブルーベリー狩りなどお客さんの楽しめるものを続けていきたいと話してくれました。



果樹園が静かになった後に、収量や品質の決め手となる大事な剪定作業があります。その剪定が一番楽しいと語る英俊さん。静かに梨の木と語り合うその時間が、この味を生み出しているのだなあと感じました。

白子果樹園：見沼区山 240 TEL.048-684-2326
(高橋 いずみ記)

見沼たんぼくらのイベント案内

見沼ふれあい農園づくり-秋野菜づくり

種蒔きから収穫まで（10時30分～12時）

- ① 9月 8日（土）＊雨天の場合、15日（土）
- ② 9月29日（土）＊雨天の場合、30日（日）
- ③ 10月13日（土）＊雨天の場合、14日（日）
- ④ 11月 3日（土）＊雨天の場合、 4日（日）
- ⑤ 11月17日（土）＊雨天の場合、18日（日）

農場：2号地（緑区大字見沼484）バス停「朝日坂上」から徒歩約10分（見沼氷川公園の南）

申込み：7月14日までに葉書で、行事名・氏名・年齢・住所・電話番号（会員は必ず会員番号）を明記し、〒330-9301 埼玉県土地水政策課へ

見沼ふれあい農園づくり-里芋づくり

会員限定（10時～12時）

- ④ 7月17日（火）＊雨天の場合、18日（水）
- ⑤ 8月17日（金）＊雨天の場合、18日（土）

＊収穫までの日程は後日決めます。

農場：1号地（緑区大字見沼610及び613）

バス停「宮本2丁目」から徒歩約10分

申込み：見沼たんぼくら事務局へ

※ 収穫が多ければ福祉施設へ寄贈します

斜面林の体験学習—雑木林・屋敷林の観察

9月23日（土）9時30分～11時30分

さいたま市立大宮体育館正門集合（9時受付）

ガイド：小野 達二（見沼たんぼくら事務局）

申込み：葉書・FAX・電話などで事務局へ

交通：東武野田線大和田駅から徒歩約15分

第51回自然観察ハイキング

見沼の自然と史跡を訪ねて—鷲神社～国昌寺方面

日時：10月6日（土）9時30分～12時30分

集合・解散：見沼自然公園管理棟前

申込み：当日、集合地で9時から受付

交通：大宮駅東口からバス⑦浦和学園高校・浦和美園駅・さいたま東営業所各行き「縮切橋」下車、南側（約20分乗車）

大宮発8時18分、24分、46分、53分

会員の協働事業及び会員の主宰行事

ふるさと発見 てくてく見沼 自然と史跡を訪ねて

日時：9月30日（日）9時～12時

集合：旧坂東家住宅見沼くらしっく館

解散：見沼自然公園

主催：見沼区

ガイド：NPO法人自然観察さいたまフレンド

■加田屋新田の田圃やヒガンバナ群生地を見て歩き、旧坂東家住宅や深井家長屋門の史跡を見学します。

問合せ：見沼区コミュニティ課

TEL（048）681-6020

見沼ぶらり・おもしろ自然観察

日時：10月7日（日）9時～12時

集合：大宮第二公園南管理棟

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

■テーマ別のグループ行動で、斜面林と田圃の一体化した里やまを歩き、秋の野の花等を観察。

申込み：当日、集合地で8時30分から受付。

参加費：¥500（中学生以下は無料）

交通：大宮駅東口からバス⑧「芝川」下車、北側。

問合せ：TEL（048）683-1764・小野

第9回さいたま市みどりの祭典

日時：10月20日（土）9時30分～16時

21日（日）9時30分～15時30分

会場：市民の森 見沼グリーンセンター

■みどりに親しみ、みどりから学び、みどりを守り育てましょう！というスローガンの下、みどりに関わる市民団体と行政機関が催物を開きます。

問合せ：さいたま市みどり推進課

TEL（048）829-1413

みぬま通信第51号

発行日 平成24年7月1日

発行所 見沼たんぼくら

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町
1-2124-3 小野方

TEL・FAX 048-683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2012 Minuma Tuusin